

水産研だより

【今回の内容】

- 1 「平成30年1月1日からの水産用抗菌剤の購入方法について」
- 2 「アユカケの最適な飼育密度について実験しています」
- 3 「イタセンパラ塾が開催されました」



1 平成30年1月1日からの水産用抗菌剤(水産用医薬品のうち抗菌性物質製剤)の購入方法について

岐阜県里川振興課水産振興室から平成29年12月8日付け里川第356号で、当研究所からも水産研だより第34号(平成29年10月)でお知らせいたしましたように、平成30年1月1日から水産用抗菌剤を購入するには、動物用医薬品販売業者に対して水産研究所或いは獣医師の発行する「水産用抗菌剤使用指導書」の写しを提出する必要があります。指導書の交付から水産用抗菌剤の購入までの流れは以下のとおりです。

Step1 「水産用抗菌剤使用指導書」の交付を受ける

- 【申請先】 水産研究所或いは獣医師
- 【申請時期】 平成30年1月1日以降
- 【必要書類】 水産用抗菌剤使用指導書交付申請書(里川振興課からの通知の別記様式第2号) 水産用医薬品使用記録(過去1年分の写し) ※使用実績が無い場合はその旨を記載
- 【注意事項】 申請から指導書の受け取りまでに1週間前後かかります。お時間に余裕をもって申請してください。

Step2 動物用医薬品販売業者から水産用抗菌剤を購入する

- 【必要書類】 水産用抗菌剤使用指導記録書(写し)
- 【提出先】 水産用抗菌剤を購入しようとする動物用医薬品販売業者
- 【注意事項】 水産用抗菌剤使用指導書の有効期間は交付の日から1年間です。その間は、何回でも水産用抗菌剤の購入に使用できますので、購入の際には写しを使用するとともに、原本は保管しておいてください。

なお、想定外の魚病の発生などのため、「水産用抗菌剤使用指導書」の交付を受けていない水産用抗菌剤が必要な場合は、「水産用医薬品使用指導書に関する理由書(里川振興課からの通知の別記様式第4号)」を動物用医薬品販売業者に提出することで、必要な薬剤を購入することができます。

ご不明な点につきましては、下記の窓口へご相談ください。

岐阜県庁 農政部 里川振興課 水産振興室 TEL : 058-272-8293
岐阜県水産研究所 漁業研修部 TEL : 0586-89-6352 (直通)
下呂支所 TEL : 0576-52-3111 (内線 : 405)

(漁業研修部 武藤)
(下呂支所 原)

2 「アユカケの最適な飼育密度について実験しています」

当研究所では、県内の特色ある水産物としてカジカの養殖技術の開発と普及を行っています。カジカはもともと小型の魚種であるため、生産者からは食材としてより活用範囲の広い大型魚種が求められるようになりました。

そこで当研究所は、カジカ類の中でもより成長が早く大型化する“アユカケ”に注目しました。アユカケの飼育は他の小型のカジカの養殖と同様の、タライを使用した小規模施設で行っています。現在、効率的な生産方法を確立するため、最適な飼育密度を調べており、これから春先にかけて採卵試験も行う予定です。最終的には採卵から食用サイズまでの一貫生産を目指します。



実験開始から2か月経過した飼育密度別のタライの様子
(左から順に低密度区、中密度区、高密度区)

(下呂支所 下村)

3 イタセンパラ塾が開催されました

当研究所では、環境省を主体として、世界淡水魚水族館アクア・トトぎふなどと連携して希少魚イタセンパラの保護・増殖事業を行っています。

イタセンパラは、天然記念物（文化財保護法・文化庁）や希少野生動植物種（種の保存法・環境省）に指定されており、学術的かつ文化的に非常に価値のある希少な淡水魚で、淀川（大阪府）、万尾川（富山県）と木曾川（愛知県・岐阜県）でのみ確認されています。

木曾川に隣接する羽島市では、羽島市教育委員会が主体となり、市内3小学校や図書館で飼育展示を行って保護・啓発活動が続けられています。この啓発活動の一環として、本年10月1日に、環境省・国土交通省の協力のもと、一般向けのイタセンパラ塾が開催されました。

当日は、親子連れなど多数の方に参加していただきました。イタセンパラ塾は、イタセンパラの講義や保護・増殖のための取り組みについての講義だけでなく、魚類調査体験や渡船乗船体験などもあり、とても密度が濃い内容でした。

当研究所は、イタセンパラの講義とふれあい体験を担当させていただきました。参加者からいろいろな質問や感想をいただき、また、イタセンパラを支えるイシガイやヨシノボリを興味深く観察する子供たちの姿がみられ、イタセンパラという魚に関心を寄せてくださっていることをひしひしと感じられました。

このような活動を通じて、イタセンパラの保護・保全の輪が広まっていけば素晴らしいことだなと思います。



(生態環境部 小松)